

## 定例活動・第2回雑木林の達人養成講座／11月25日(土) 「竹と雑木林」

真弓 浩二

日頃、相生口・山根口の竹林での竹伐り活動や、竹炭焼き活動に勤しんでいる森くらぶですが、改めて「竹と雑木林」をテーマに第2回雑木林の達人養成講座が催されました。講師には、竹筴研究会の解語玄さんをお迎えし、午前中の座学、午後のフィールドワークに、約25名の参加者は、楽しみながら学ぶことができました。

解語さんは、以前よりタケ・ササについて市民研究家の立場で関わられ、猪高緑地の竹の侵出について広く市民にアピールされるなど、放置された竹

林の問題や竹や笹の魅力や啓蒙・普及されている方です。これまで度々森くらぶの活動へも参加頂いており、われわれにとってはなじみのある方です。



▲タケやササについて熱く語る解語さん



▲相生口の竹林にて

午前中の座学では、竹・笹研究の第一人者とも言える室生絆さんや竹資源活用フォーラムの内村悦三さんとの交流のエピソードを交えながら、竹の種類、性質、適切な竹林管理の方法について、たくさんの興味深いお話を伺いました。

## 第3回雑木林の達人養成講座／12月16日(土) 「竹炭焼きと竹のクラフト」

村田 英二

12月16日開催の達人養成講座は、遠路岐阜より竹文化振興協会の松本岐卓支部長始め多くのスタッフが相生山に駆けつけてくれました。

午前中は座学で、竹に関する基礎知識、竹炭焼きの基本及び竹クラフトガイダンスでした。松本支部長の講義は、竹への情熱が肌に伝わるものでした。特に食材としての竹の有用性に関するくだりでは、聴いている自分自身タケノコを食したい衝動に駆られました。

午後は竹のクラフトの実践です。私は竹の花瓶と竹ひごによる風車を制作しました。花瓶は、竹の節を柄に用いるもので面白いアイデアだと感心しま

した。風車は森くらぶの会員でもある辻本さんに指導を受けましたが、さっぱり編むことが出来ず、全部辻本さんに作ってもらいました。(恥ずかしい)



▲午後のクラフト制作風景

何はともあれ、時間を忘れてクラフ



▲見本として展示された見事な作品

トを楽しむことができました。

最後になりましたが、協会の方々へお詫び申し上げます。当日の講座受講生が少なく、大半森くらぶの会員が受講することとなりました。遠方より多くのスタッフに来ていただいたのに本当に申し訳ありませんでした。これに懲りずに今後とも、相生山オアシスの森くらぶをお引き立て下さい。

## シリーズ『森の住人たち』⑩

～ウソ(鶯)～

### 花のつぼみを食す グルメな鳥



鳥の声が聞こえた。植物観察の視線をおもむろに空に転じる。いる、いる、10羽程のシルエットが見える。双眼鏡でのぞくと、黒い頭と喉から頬にかけて紅色の鳥、ウソ(鶯)の群れだった。木の芽を食べているようだ。すっかり木の葉を落としたそれは、樹皮でヤマザクラと知れた。一説にはソメイヨシノ(染井吉野)の花芽しか食べないというが、本当はどうなのだろう・・・。ウソは「フィー、フィー」とか「ヒュー、ヒュー」と澄んだ声で鳴き、口笛のように聞こえる。

名前はウソ、ホントのウソではなく、「うそぶく」の意味からきている。「とぼけて知らないふりをする」の他に、「口笛を吹く」という意味もあり、これが名前の由来だそうだ。

スズメ目アトリ科

全長 16cm 環境 夏期は高山帯で繁殖。冬期は低地の森・丘陵地など

夏は高山の針葉樹林帯で繁殖し、冬は低地の森に移動してくる。

双眼鏡を持つ二人連れが通りかかり、何があるのかと問う。頭上の梢にウソ(鶯)がいることを告げる。男性はすぐさまその鳥の姿をとらえたが、女性はなかなか確認できない様子だ。位置を細かく何度も説明すると、女性はようやく確認できたようだ。久しぶりに出会ったと、笑みをたたえて二人が立ち去った。そうそう、私自身もこのところウソと出会ったのは、切手の図案・・・。1月中旬には、全国各地の天満宮で「ウソ替え」の神事があり、ウソと出会える。ただし木製。

やはりバードウォッチングは、森に限る！

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)